

受付番号：	2010-200
研究課題名	高齢者における 腹腔鏡下大腸切除術の有効性と安全性に関する後向き調査
研究期間	西暦 2010年 7月（倫理委員会承認後）～2012年 6月
対象材料	<input type="checkbox"/> 病理材料（対象臓器名） <input type="checkbox"/> 生検材料（対象臓器名） <input type="checkbox"/> 血液材料 <input type="checkbox"/> 遊離細胞 <input checked="" type="checkbox"/> その他（病理データ）
上記材料の採取期間	西暦 2003年 1月～2007年 12月
意義、目的	<p>現在、大腸癌は、食生活の欧米化にともない過去50年間一貫して増加傾向であり、2006年の厚生労働省の「人口動態統計」でも、癌の部位別死亡者数では男性の死因の第4位、女性の第1位となり、年間約4万人が死亡している。化学療法の進歩により、予後不良であった遠隔転移や再発を来した症例においても5年生存率の改善が認められるが、治療の基本は外科的切除であり、近年のランダム化比較試験による科学的根拠を重視した治療方針、ガイドラインの確立によって、手術の質は均てん化されつつある。しかし大腸癌という疾患の性格上、高齢者での罹患率が高く、臨床現場では、高齢の症例に対する安全性、有効性の確立が急務となっている。本調査では、高齢者における腹腔鏡下大腸癌切除術の問題に焦点を絞り検討を行う。</p>
方法	<p>全生存期間（Overall Survival; OS）  無病生存期間（Disease-Free Survival; DFS）  術後評価項目  平均術後入院日数、平均経口摂取開始日数、合併症発生率</p>
問い合わせ・苦情等の窓口	<p>東北大学 肝胆膵外科 内藤剛  東北大学 胃腸外科 安藤敏典 Tel:022-717-7205</p>